

No. 10

メキシコ、ベリーズ
青年海外協力隊巡回指導調査団報告書



JICA LIBRARY



J1162310(5)

平成12年11月

国際協力事業団
青年海外協力隊事務局

青海二
J R
00-022

ARY

目次

1 本件調査団の派遣について

1-1 調査背景	1
1-2 調査団対処方針	1
1-3 調査団員構成	2
1-4 調査日程	3
1-5 主要面談者	5

2 調査結果概要

2-1 メキシコ合衆国	8
2-2 ベリーズ	18

3 現地調査結果（メキシコ合衆国）

3-1 メキシコ事務所との協議	23
3-2 日本大使館との協議	23
3-3 メキシコ外務省との協議	24
3-4 メキシコ事務所への調査結果中間報告及び協議	25
3-5 協力隊活動現場視察	27

4 現地調査結果（ベリーズ）

4-1 ベリーズ水谷恭平協力隊調整員との協議	38
4-2 ベリーズ外務省及び経済開発省との協議	38
4-3 ベリーズ協力隊調整員事務所物件調査	38
4-4 語学訓練現地準備状況調査	38
4-5 要請背景調査	39

添付資料

メキシコ合衆国隊員配置図

メキシコ派遣中隊員に実施したアンケート結果集計表（分野別）

ベリーズ国隊員配置図

ベリーズ調整員事務所物件調査票及び候補物件周辺地図



1162310[5]

1 本件調査団の派遣について

1-1 調査背景

- (1) メキシコには1994年以来53名（一般短期含まず）の隊員が派遣されてきた。派遣隊員数は概ね1隊次2～5名であり、派遣中隊員も20名弱で推移してきたが、平成12年度2次隊では10名の協力隊員の派遣を予定し、今後「メ」国における協力隊事業を強化し、派遣人数も拡大していく方針である。

平成12年度秋募集では42件の要請が協力隊派遣のモデル州とする予定のベラクルス州及びオアハカ州を中心に上がっており、特に農林水産分野及び保健医療分野（障害児教育分野）の要請が多い。

また、協力隊事務局では、JICA 全体で取り組んでいる国別地域別アプローチをより効果的にするために、協力隊を含んだボランティア事業も同アプローチに沿ったものにするを現在検討中である。具体的には、国別事業実施計画策定の過程で重点セクターの分析がなされた上でのJICA の投入計画に、いかにボランティア事業の独自性を保ちつつ相互補完的に協力を実施していくかを検討している。

- (2) ベリーズとは1999年9月20日に協力隊派遣取極が締結され、2000年の12月上旬に隊員派遣が開始される予定である。隊員派遣に先立ち協力隊調整員が2000年9月に派遣され、協力隊員の受入準備等を行っている。

1-2 調査団対処方針

(1) メキシコ

ア 派遣の強化に伴い、現状の問題を踏まえ派遣形態の再検討を行う

現状は少数の隊員が広大な国土に散在しており、安全確認、精神衛生上問題が発生する可能性が大きく、また隊員間の連携も取られにくいため、派遣重点地域を設定し、隊員間の連携が促進される状況整備を行うことを事務所と共に検討する。

また、職種によっては隊員間の連携を可能とし、協力効果を高める事が期待される同職種複数派遣、同一配属先異業種複数派遣を検討する。

本調査では、ベラクルス州配属看護婦（士）（同職種複数派遣）、並びにピニャ・パルメラ児童支援センター及びウイチャパン社会総合教育センター（同一配属先異職種複数派）の要請背景調査及び派遣中隊員の活動について調査を行い、複数派遣の有効性等について検討を行う。

イ メキシコ事務所と事務局との間で派遣方針の共有を図る

今後、メキシコへの協力隊派遣方針を、可能な範囲で国別事業実施計画に沿ったものとすることを確認する。

また、派遣職種については国別事業実施計画の重点分野に沿ったものとすると同時に、国内の応募状況を踏まえたものとすることを確認する。

ウ 連絡所の設置について検討を行う。

(2) ベリーズ

ア 隊員受入準備の進捗状況及び事務所立ち上げの進捗状況を確認する。

具体的には以下のものを確認する。

(ア) 調整員事務所物件設置準備状況

(イ) 現地語学訓練実施準備状況

(ウ) 現地物価

(エ) 12/2 隊員配属先の隊員受入準備状況

(要請内容変更の有無及び住居)

(オ) 新規要請背景調査（新規要請の有無及びその内容について）

(カ) ベリーズ国協力隊派遣方針

1-3 調査団員構成

1 団員 内山 貴之（青年海外協力隊事務局 海外第二課職員）

1-4 調査日程

(メキシコ合衆国)

	日付	曜日	場所	内容
1	11/7	火	成田発 メキシコ着	
2	11/8	水	メキシコ事務所 大使館 墨外務省 脳性麻痺支援協会	打ち合わせ 表敬訪問 表敬訪問 12秋募集(理学療法士)
3	11/9	木	Mexico D.F. → Huichapan (HIDALGO) ウイチャパン社会総合教育センター Huichapan → El Paso (HIDALGO) 社会開発省地域開発局エルパソ村 El Paso → Ixmiquilpan(HIDALGO) ボハイ農民組合 メステカ谷の花組合 Ixmiquilpan → Tulancingo(HIDALGO)	移動 荻野民子隊員(11/1養護) 移動 野村貴子隊員(10/2野菜) 移動 柏雅喜隊員(11/1市場調査) 安田亜希子隊員(9/3手工芸) 移動
4	11/10	金	神経開発専門センター Tulancingo → Poza Rica(VERACRUZ) ボサ・リカ病院 Poza Rica(VERACRUZ) → Mexico D.F.	吉野典子隊員(12/1言語聴覚士) 移動 西原美佳隊員(12/1看護婦(士)) 移動
5	11/11	土	Mexico D.F. → Huatulco(OAXACA) ピニャバル児童支援センター	移動 竹下美奈子隊員(9/3婦人子供服) 渡部敬子隊員(12/1言語聴覚士)
6	11/12	日	Huatulco → Mexico(D.F) → Veracruz	移動
7	11/13	月	ベラクルス病院訪問 Veracruz → Santiago de Tuxtla サンティアゴ・デ・トゥクストラ市役所 Santiago de → Catemaco	12/2箕輪符文枝(看護婦) 移動 新規要請配属先視察(土木設計) 移動
8	11/14	火	Catemaco → San Andres Tuxtla ベルナルド・ベニャ病院 San Andres Tuxtla → Catemaco カテマコ保健所 Catemaco → Minatitlan → Mexico(D.F) JICAメキシコ事務所	阿形郁子隊員(11/3看護婦) 移動 笹川恵美隊員(11/2助産婦) 移動 メキシコ事務所に調査結果報告
9	11/15	水	Mexico D.F. → Merida → Rio Lagartos リオ・ラガルトス市役所	移動 南雲真理美隊員(10/3婦人子供服) 斎藤和敬隊員(11/3養殖)
10	11/16	木	カンクン発(CO-1233) ヒューストン着	移動

(ベリーズ)

	日付	曜日	場所	内容
10	11/16	木	カンクン発 (CO-1233)	移動
			ヒューストン着	
			ヒューストン発	
			ベリーズシティ着	ベリーズ調整員事務所物件調査
				ベリーズシティ生活環境調査
11	11/17	金	教育スポーツ省 職業訓練・教育局	要請背景調査
			Belize City → Belmopan	移動
			ベリーズ外務省/経済開発省	表敬訪問
			地方開発省 地方開発局	要請背景調査 (12/2山口貴弘隊員配属予定)
			国土情報センター	要請背景調査 (12/2樋口忠夫隊員配属予定)
			ナショナル4Hセンター	要請背景調査 (12/2和川卓也隊員配属予定)
			地域言語センター	現地語学訓練予定施設調査
			Belmopan → San Ignacio	移動
			職業訓練センター カヨ校	新規要請背景調査
			San Ignacio → Belize City	移動
12	11/18	土	Belize City → Dangriga	移動、生活環境調査
			Dangriga → Belize City	移動
			ベリーズシティ発 (AA2194)	移動
			ダラス着	
13	11/19	日	ダラス発 (JL045)	移動
14	11/20	月	成田着	

1-5 主要面会者

(メキシコ合衆国)

日本大使館

村岡 太 書記官

JICA メキシコ事務所

山口 三郎 所長

桜井 英充 次長

仲間 和夫 協力隊調整員

メキシコ外務省

EFRAIN DEL ANGEL RAMIREZ、外務省科学技術協力局課長

脳性麻痺支援協会

Dr. Enrique Carrido Ramirez、協会長

ウイチャパン社会総合教育センター

Rogelio Sanchez Ramires、センター長

社会開発省地域開発局エル・パソ村

Flavio Cruz Martinez、村長

ボハイ農組合

Agustin Sanchez Cruz、農業組合支所長

メスキタル谷の花組合

Catalina Pedraza Catalan、組合員

神経開発専門センター

Lic. Maria Rsa Lugo Vargas

ポサ・リカ病院

Raquel de Leon hernandes、婦長

ピニャ・パルメラ児童支援センター

Flavia Ester Anau、業務調整担当

ベラクルス州

Lic.Roberto lopez Santo、行政開発課長

Ing.Carlos Preza Hernandez、JOCV 担当調整員

ベラクルス州保健省

Dr.Mauro Loyo Varela、保健省局長

Enf.Tereza Alvorado、看護婦長補佐

ベラクルス病院

Dr.Jose Luis Lara Gonzalez、院長

ベルナルド・ペーニャ病院

Dr.Juan Jorge Ferman Suarez、院長

カテマコ保健所

Dr.emiliano Delgado Paxtian、院長

サンティアゴ・デ・ドゥクストゥラ市役所

IngPedro Gerardo Solano Arias、公共事業課長

リオ・ラガルトス市役所

Victor Manuel Pat Loria、市長

(ベリーズ)

ベリーズ調整員事務所

水谷 恭平 協力隊調整員

外務省

Mr. David A.K. Gibson、事務次官

経済開発省

Ms. Nancy Mahung Namis、JOCV 担当官

教育スポーツ省

職業訓練・教育局 (E.T.E.S : Employment Training and Education Services)

Mr. Stansmore Bowman、局長

Ms. Laura Flores、担当官

職業訓練センター カヨ校 (CET : The Cayo Center for Employment Training)

Ms. Morris、職員

天然資源・環境・産業省 国土情報センター

Ms. P. Noreen Fairweather、首席情報官

地方開発・文化省 地方開発局

Ms. Lilia Zaiden、地方開発調整官

観光・青年省 ナショナル 4H センター

Ms. Hall、監督官

2 調査結果概要

2-1 メキシコ合衆国

(1) 派遣形態について

ア ベラクルス州看護婦（士）隊員複数派遣プロジェクト

中野真理子隊員（8/1 看護婦（士））が同州で積極的に活動し、評価が高かったことを受け、同州の各地域の病院にそれぞれ1名の看護婦（士）隊員を派遣し、隊員間の連携により協力効果の向上を目指すことを計画している。既に11/3、12/1 各1名の2名の隊員が活動中であり、12/2で4名が赴任するため、最終的に同州では6名の看護婦（士）隊員が活動することとなる。

本調査団派遣前に派遣中隊員対象に実施した活動状況に関するアンケート（別添1）によると、現在派遣中の保健衛生分野（福祉関連除く）隊員5名のうち4名が、地方病院及び診療所への隊員派遣について否定的であり、看護教育分野への派遣を提案していた。そのため活動状況について懸念を抱いていたが、現在活動中の2名の隊員の活動状況を調査した結果、少なくとも現状では両隊員とも積極的に活動しており、病院への隊員派遣の協力効果は確認された。現状では未だ同プログラムで活動している隊員は2名のみであり、積極的な連携は見られないが、12/2の4名が赴任した後の本格的な連携が期待される。



「西原三佳隊員（12/1 看護婦（士））とカウンターパートの婦長」

西原隊員はボサ・リカ病院において、カウンターパートである婦長と共に中心となり、中野隊員が残した看護のプロセスを記録する「看護シート」の看護現場への導入を精力的に行っていた。現在は同病院のみでの活動であるが、活動は順調であり、今後はカウンターパートである婦長が講義を持っている看護学校の訪問、並びに近隣病院への活動の展開を予定している。



「阿形郁子隊員（11/3 看護婦（士））とカウンターパートの婦長」

一方、阿形隊員はベルナルド・ペーニャ・スブソーナ病院においてカウンターパートの婦長とともに、古い看護婦業務マニュアルの改訂作業を同病院の看護婦に全面的に参加してもらいながら行っていた。問題点として、看護婦資格のない者が看護婦と同様の業務を行っていること、中学校卒業後3年間の学習により一般看護婦の資格が取得可能なこと、1日14時間業務で休日がほとんど存在せず職場環境が劣悪であることなどがあげられ、こういった問題に対応するには病院を管理している上部機関、もしくは地域の中心となる病院への派遣が必要との意見であった。同病院は西原隊員の配属しているボサ・リカ病院よりもかなり規模が小さい病院であり、同病院の規模では他の病院に協力効果を裨益することは困難とのことであった。

しかしながら、同隊員の活動により同僚看護婦の問題意識が高まり、看護婦マニュアルの改訂作業に取り組んだり、自費で看護の講義に参加するようになるなど、協力効果を感じる事ができた。また、両隊員とも婦長がカウンターパートとなっていたため、専門の科に縛られることなく大きな視点で活動が可能であり、看護業務の改善を行う上で大きな助けとなっていた。

両隊員によると同州における看護業務の改善を目指し、12/2 看護婦（士）隊員4名の赴任を待ってミーティングを行い、共同で講習会を企画したり巡回指導等を行うことを予定しているとのことであった。

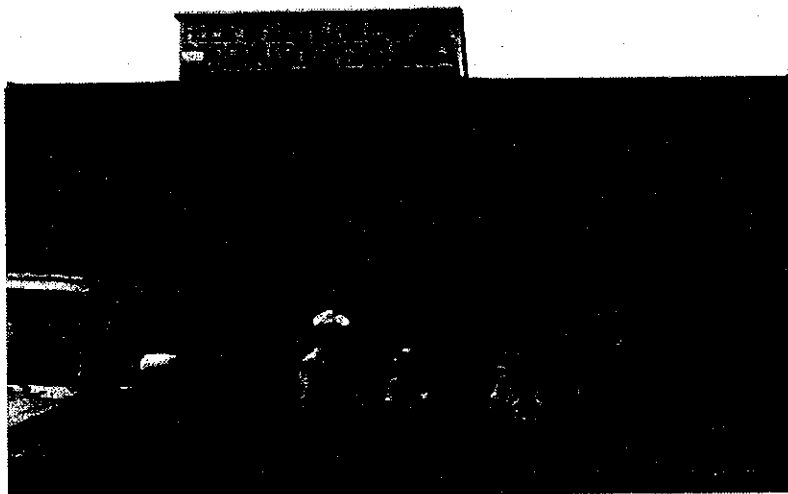
婦長をカウンターパートとし、地域の中心病院への派遣が条件となるが、各地区では隊員の配属病院が所属地区のモデル病院となり、講習会等を行い協力効果を近隣地域の病院に裨益することが期待され、同時に別地区の隊員との連携により州全体の看護レベルの底上げを図ることが期待される。12/2 看護婦（士）隊員4名が赴任した後に本格的な連携が期待されるものの、同一州に複数の同職種隊員を派遣することは地域に対するインパクトも高く、隊員間及び隊員が配属されている地区間の連携を促進し大きな協力効果が期待できると判断された。

その上で、一つのモデルとして機能する可能性が高いことが確認されれば、他の州で応用することも視野に入れ、「メ」国に対する協力を展開していくこととしたい。



←ベラクルス病院
(12/2箕輪文枝)

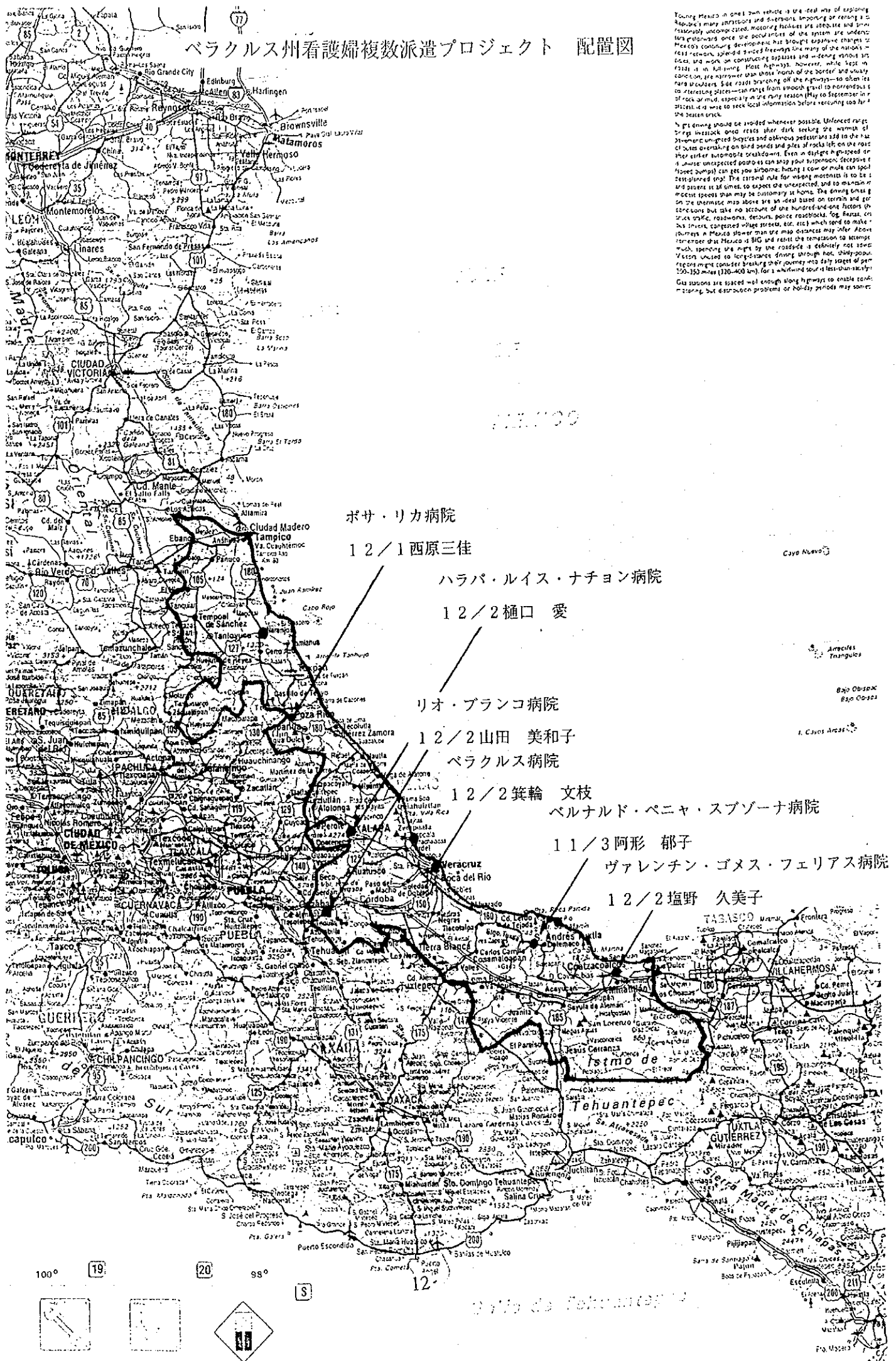
ポサ・リカ病院
(12/1西原三佳)



ヴェルナルド・ペニャ
スブゾーナ病院
(11/3阿形郁子)



ベラクルス州看護婦複数派遣プロジェクト 配置図



ボサ・リカ病院

12/1 西原三佳

ハラバ・ルイス・ナチオン病院

12/2 樋口 愛

リオ・ブランコ病院

12/2 山田 美和子

ベラクルス病院

12/2 箕輪 文枝

ベルナルド・ペニャ・スブゾーナ病院

11/3 阿形 郁子

ヴァレンチン・ゴメス・フェリアス病院

12/2 塩野 久美子

Young Mexico in one's own vehicle is the ideal way of exploring Mexico's many attractions and diversions. Importing or renting a car reasonably unimpeded once the local intricacies of the system are understood. Mexico's continuing development has brought extensive changes to road networks, and a few freeways have many of the modern amenities and work on constructing bypasses and widening without any delay. It is in fact, a most impressive sight, while kept in perspective, are narrower than those found at the border and usually have no shoulders. Safe road driving off the highway is to be avoided in interesting places—can range from smooth gravel to potholes in a rock of mud, especially in the rainy season (May to September) in places it is wise to seek local information before venturing too far from the beaten track.

Nothing should be avoided whenever possible. Unfenced ranges of large livestock often cross the dark tracks of the narrow unpaved highways and enormous peccary are still to be seen either on the road or in the brush. Even in a dark night or in a heavy rain, a sudden unexpected pothole can stop your suspension (despite a "bump" that can get you airborne) and a car or more can be overturned. The standard rule for visiting motorists is to be a "defensive" driver. The standard rule for visiting motorists is to be a "defensive" driver. The standard rule for visiting motorists is to be a "defensive" driver. The standard rule for visiting motorists is to be a "defensive" driver.

12

- イ ピニャ・パルメラ児童支援センター（同一配属先異職種複数派遣）
竹下美奈子隊員（9/3 婦人子供服）、渡部敬子隊員（12/1 言語聴覚士）、
朝倉英之派遣予定（12/2 果樹）、永縄留美子派遣予定（12/2 養護）、
手工芸（平成 12 年度秋募集）

同センターはスウェーデン人により設立された NGO であり、重度の障害者 6 名が同施設で生活している他、周辺地域の障害者に対してリハビリ指導及び様々な職業訓練を行っている。世界各地から短期のボランティアも受け入れており、毎週土曜日には近隣海岸にて水療法も行っている。地域の養護学校や刑務所での援助活動等幅広い活動を行っているが、1997 年のハリケーンパウリナにより甚大な被害を受け、草の根無償資金協力（「ピニャ・パルメラ居住・宿泊施設整備プロジェクト」）にて障害者及びボランティア向けの居住・宿泊施設を建設中である。



「婦人子供服を制作している竹下美奈子隊員（9/3 婦人子供服）」

竹下隊員は配属先変更を行い現在まで約 1 年間、同センターにてセンター利用者の自立を助けるため洋裁技術を指導している。しかしながら当初は障害児の母親や周辺住民が集まり洋裁教室を開催していたものの、現在は生徒が集まらなくなり、教室は開いていなかった。残りの任期が少ないこともあり、現在は個人的に婦人子供服や車椅子用のカバー等を作成する

ことにより配属先を支援している。

渡部隊員は任地は年中高温多湿であり蚊も多く、生活環境が厳しいこともあり、着任後1ヶ月は体調を崩し活動がほとんど行えない状況であった。しかしながら本調査団訪問時は着任後約2ヶ月が経過しており徐々に任地の環境に適応しつつあった。現在はカウンターパートの言語聴覚士とともに約20人の障害児を対象にセンターで言語療法を行うとともに、月1回程度地域に巡回に出向き、言語療法及び同センターの情報提供を行っている。今は現地に順応しつつある時期であり、本格的な活動をするには至っていない。



「講習会の準備を行っている渡部敬子隊員（12/1 言語聴覚士）」

渡部隊員は赴任間もなく竹下隊員は離任間近という隊次の差、また婦人子供服と言語聴覚士という職種の違いもあってか活動上の連携は積極的には見られなかった。ただし、同任地は首都から遠く離れており、周囲数百キロにわたり他隊員の任地が無い場合、一人で孤立することを避ける意味では、複数派遣の意義はあると判断された。今後、養護と果樹隊員が赴任する予定であるが、特に養護と言語聴覚士は同じ分野でもあり、活動上の連携も期待される。

(2) メキシコ青年海外協力隊派遣方針について

メキシコ事務所と協議を行った結果を踏まえ、メキシコ青年海外協力隊派遣方針（案）を策定した。

メキシコ青年海外協力隊派遣方針（案）

1 派遣形態及び重点州の設定

メキシコは広大な国土を有しているため、個別に派遣された場合には、①四方数百キロメートルに渡り一人も他の隊員が存在しない状況が発生し、安全確認、精神衛生上問題が発生する可能性が大きい②隊員間の連携が取られにくいといった問題がある。

そこで、現在20名の隊員が6つの州の14の市町村に派遣されているが、モデル州及び派遣重点州を設定し、同一州もしくは同一地域に複数の隊員派遣を行い、隊員間の連携及び協力効果を今まで以上に高めることを目指す。また、特にモデル州において、職種によっては隊員間の連携を可能とし、協力効果を高めることが期待される同職種複数派遣、及び同一配属先異職種複数派遣を検討する。

モデル州についてはメキシコの貧困度、治安、受入体制、協力実績等を検討した結果、貧困度がメキシコ第4であり、治安面の問題が少なく、受入側の熱意も高いベラクルス州とすることとする。

オアハカ州についても治安面の問題はあるものの貧困度が第3であり、既に隊員派遣実績があることから、治安面で問題がないことが確認されている地域に積極的に隊員派遣を行うこととする。

イダルゴ州、ミチョアカン州についても複数の隊員が派遣されており、協力効果が出ていることから継続して隊員を派遣していくこととする。

なお、チアパス州ロス・アルトス地域、セルバ地域及びグアテマラ国境付近については「注意喚起」、ゲレロ州全域について「業務目的外渡航見合わせ」処置が取られているため、重点州の検討対象から除外している。

モデル州及び重点州（案）

◎ベラクルス州（モデル州）

○オアハカ州

○イダルゴ州

○ミチョアカン州

なお、都市部における都市型貧困対策、並びに草の根無償資金協力、開発福祉支援、開発パートナー事業等との連携も重視することとする。

(メキシコ州別検討結果)

州	検討結果	貧困度数に基づく順位	一人あたりGDP(US\$)	死亡に占める殺人の割合	派遣中隊員数(12/2含む)
チアパス	×	1	1,606.3	5.0%	0
ゲレロ	×	2	1,958.2	10.2%	0
オアハカ	○	3	1,585.0	5.2%	5
ベラクルス	◎	4	2,336.4	1.6%	9
イダルゴ	○	5	2,199.1	1.6%	5
プエブラ	×	6	2,631.2	1.9%	0
ユカタン	×	7	2,893.5	0.6%	2
ミチョアカン	○	12	2,143.4	3.5%	8
グアナファト	×	13	2,518.0	1.5%	3

The National Population Council for 1995 (CONAP1998) より

貧困度数は収入、教育、生活水準、人口分布等の指標から算出

貧困順位は1995年、一人あたりGDPは1997年、死亡に占める殺人の割合は1998年の値

2 派遣分野

基本的にメキシコ国別事業実施計画の重点分野に沿った形で、派遣分野の検討を行うこととする。

平成12年度のメキシコ国別事業実施計画の重点分野は①環境分野②保健医療分野③産業開発・地域振興④職業技術教育⑤南南協力となっている。そのうち国別重点課題検討準備会(平成12年10月実施)において、以下の4プログラムを重点プログラムとして検討することを決定した。

- ◎保健医療分野(リプロダクティブヘルスプログラム)
- ◎南南協力(南南協力支援プログラム)
- 環境分野(森林保全、沿岸部水質、生物多様性プログラム)
- 産業開発・地域振興プログラム(村落改善プログラム、地方活性化プログラム)

については、同重点分野のうち南南協力を除いた、協力隊事業で効果が期待される保健医療分野、環境分野、産業開発・地域振興分野の3分野を協力隊派遣の重点分野とする。具体的に期待される職種は以下のとおり。

重点分野(案)

- ◎保健医療分野(看護婦(士)、保健婦(士)、助産婦、栄養士、養護、理学療法士等)
- 環境分野(環境教育、公衆衛生等)
- 産業開発・地域振興
(村落開発普及員、青少年活動、識字教育、SE、家政、婦人子供服、手工芸、野菜)

なお、適格者の確保が困難である農林水産関連職種の一部については、確保の見込みが薄いまま募集を継続するのではなく、それぞれの専門性では見劣りするものの優秀な人材が確保しやすい村落開発普及員（農業系）や環境教育等の職種で対応できる要請については職種変更を検討する。

3 派遣人数

現在20名規模の派遣人数であるが、今後は徐々に増加させ1隊次に5～6名を派遣し、平成13年度は30～35名規模を目指すこととする。

隊次	11/1	11/2	11/3	12/1	12/2	12/3	13/1	13/2	13/3
派遣人数 (括弧内は予定人数)	3	2	4	3	10	(5)	(6)	(5)	(5)

平成12年度派遣中隊員予定数（11/1～12/3） 27名

平成13年度派遣中隊員予定数（12/1～13/3） 34名程度

以上

(3) 隊員連絡所について

近年多くの国の隊員連絡所が、休暇の度に頻繁に滞在し無為な時を過ごすといった「逃げ」の場となるケースが多数見されること、また隊員連絡所は私費で上京する隊員及び任国外研修旅行中の隊員のホテル代わりの施設ではないことに留意しつつ、その他連絡所機能（隊員の集会、保養、相互研鑽の場）の必要性については十分理解されるため、事務所及び隊員の意向を確認した上で、来年度については前向きに検討する旨説明を行った。

メキシコ事務所から当方の懸念に対して、隊員連絡所が単なる宿泊施設とならないように運営を徹底する旨回答があった。

2-2 ベリーズ

隊員の受け入れ準備の進捗状況及び事務所立ち上げの進捗状況について確認を行った。

水谷調整員がベリーズに着任後1週間は独立記念式典のため省庁は機能せず、またハリケーンキースによる JDR 受け入れ、協力隊調整員事務所設置都市が約2ヶ月間決定しなかったこと等から、調整員事務所開設準備及び平成12年度秋募集新規要請開拓は順調には進んでいず困難な状況にあった。

(1) 調整員事務所物件について

駐ベリーズの各国大使館及び国際機関が多く、また最も治安の良いフォートジョージエリア及び同エリアに次いで治安の良いキングスパークエリアでの事務所設置を検討していた。両エリアにおいて駐車スペースが敷地内に確保可能な物件で、かつ水害の被害を避けるため2階以上を賃貸可能な物件のうち、フォートジョージエリアにある1つの物件の調査を行った。他の物件については日程の都合上調査を行うことは出来なかった。



「ベリーズ調整員事務所候補物件1」

(2) 現地語学訓練について

平成12年度2次隊着任に関し、12月13日から12月23日まで10日間の現地語学訓練を地域言語センター（Regional Language Center）で実施することを検討しているが、クリスマス休暇と重なってしまうため正規の教師では対応が不可能であり、現在同センターが臨時教師を探しているとの説明があった。同センターはベリーズで唯一の語学学校であり、臨時教師が見つからない場合は個別教師を雇い対応する方針を確認した。

→その後ハリケーン時に休校になった分が延長されて、本来であれば12月18日に学校が終了の予定が22日まで職員が働くこととなり、同施設での現地語学訓練実施が決定した。

詳細は以下のとおり。

「ベリーズ現地語学訓練（案）」

1	学習言語	英語
2	到達目標	ベリーズ独特の発音・表現方法になれることを目標にリスニング力の強化、高等での表現力の強化を目指す。
3	訓練期間	平成12年12月13日～21日
4	予定授業時間数	30時間
5	訓練場所・宿泊施設	ベリーズ大学ベルモパン校地域言語センター 宿泊施設は各隊員のホームステイ先（12/2は全てベルモパン隊員）
6	委託先の概要	ラテンアメリカ諸国とカリブ諸国の架け橋となることを目指し、ムサ大統領のイニシアティブにより2000年8月1日に設立。中米圏の教員・学生が英語を学び、カリブ圏の者が西語を学ぶ場を目指す。建物及び施設は台湾政府の寄与による。
7	施設	職員室8、事務室1、会議室2、大教室5、コンピューター室1 視聴覚室1
8	経費（3名分）	4,622.50BZ\$(2,311.25US\$) 授業料100BZ\$×30hrs=3000BZ\$ 教材費50BZ\$×3人=150BZ\$ 手数料 472.50BZ\$ フィールドトリップ2回分 1000BZ\$

(3) 現地生活費について

隊員の現地生活費について米国平和部隊及び VSO の現地手当てと同水準を検討している旨説明したところ、米国平和部隊隊員等も同手当てで生活しているところ同水準で対応は可能と思料するが、省庁配属隊員に関しては同僚の給与水準が高いため困難が予想され、現地生活費改訂の必要性がある場合は柔軟に対応願いたいとの回答があった。当方から実際に隊員が派遣され、当初の現地生活費では生活及び活動に大きな支障が生じる場合は、柔軟に対応する旨回答した。

(4) ベリーズ青年海外協力隊派遣方針について

ベリーズ調整員との協議及び現地調査を行った結果を踏まえ、ベリーズ青年海外協力隊派遣方針（案）を策定した。

ベリーズ国青年海外協力隊派遣方針（案）

1 ベリーズ国のニーズ

ベリーズ国の重点産業は4大産品である砂糖、柑橘類、バナナ、水産物に支えられており、労働人口の約30%、外貨収入の約70%を占めている。しかしながら、長らく米国、欧州及びカリブ共同体から与えられた特惠貿易待遇枠を利用して国際標準より高い価格と輸出割当量を保護されていたため、世界的な貿易自由化の流れの中で特惠枠撤廃の可能性が高まるなか、モノカルチャー経済からの脱却が求められている。

今後成長が大きく期待される産業としては世界第2位の規模の珊瑚礁、マヤ遺跡、手つかずの熱帯雨林等を有する観光業、ホテル・サービス業があげられる。

また、現在カリブ開発銀行からの支援を受け、各種職業訓練に力を入れており同分野にもニーズが存在すると考えられる。

なお、地区別に見ると南部のグアテマラ国境付近が貧しく、トレド地区、次いでカヨ地区が貧困地区と位置づけられる。

(ベリーズの地区別貧困状況)

	国全体	Corozal	Orange Walk	Belize	Cayo	Stann Creek	Toledo
貧しい住民の割合	33.0%	26.7%	24.9%	24.5%	41.0%	26.5%	57.6%
極貧住民の割合	13.4%	8.7%	5.0%	6.5%	19.7%	5.1%	47.2%

〔ベリーズ国家開発戦略 1997～2000〕より

2 他ドナー及び援助機関の動向及び活動分野

「ベ」国には、VSO が 2003 年に撤退することを決定したものの、依然多くの援助機関及びドナー国の協力活動が展開されている。各ドナーの重点協力分野は以下のとおり。

- ①米国平和部隊：教育（コンピューター教育等）、環境、青年育成
- ②VSO：教育（各種教師）
- ③台湾政府：農業（各種農業プロジェクトを実施）
- ④キューバ政府：保健医療（医師、看護婦（士）派遣）

なお、VSO の撤退理由については、「ベ」国に開発計画の分野で平成12年1月から同4月まで派遣されていた伊澤専門家の報告書によると

①ベリーズのように経済指標からは最貧国と言えない国において、政府機関の人手不足の穴埋めにボランティアを派遣し続けることは派遣の趣旨にそぐわない。②ベリーズ側が求める高い技術レベルへの対応が困難の2点があげられている。

しかしながら「ベ」国はほぼ全ての産品を輸入に頼っているため、政策的に1米ドル=2ベリーズドルという高い固定レートを維持しており、米ドルベースの経済指標が同国の実体を反映しているとは言えないこと、並びに南部は貧困状態にあり協力隊派遣による協力効果は見込まれると考えられる。

3 協力隊派遣方針（案）

「ベ」国は都市部は一定の発展段階にあるため、地方部、特にトレド地区及びカヨ地区を重視し、協力隊の派遣を行う。

派遣分野に関しては、他ボランティアとのデマケを確認しつつ、「ベ」国ので今後成長が求められる観光分野、現在カリブ開発銀行の支援により全国で整備を進めている職業訓練分野、並びに南部貧困地域に対する地方開発分野及び地域医療分野を重視することとする。

具体的に期待される職種は以下のとおり。

- 観光分野（観光業、生態調査、考古学、環境教育、料理等）
- 職業訓練分野（青少年活動、食品加工、自動車整備等）
- 地域開発分野（村落開発普及員、野菜等）
- 地域医療分野（栄養士、保健婦（士）、看護婦（士）等）

4 派遣規模

当面、1隊次3名規模で年間15名程度を派遣する。

隊次	12/2	12/3	13/1	13/2	13/3
派遣予定数	3	1	3	3	3

平成13年度派遣中隊員予定数 13名程度

以上

3 現地調査詳細（メキシコ合衆国）

3-1 メキシコ事務所との協議

先方：山口所長、桜井次長、仲間調整員

（1）隊員の派遣形態について

メキシコ事務所から、日本はメキシコに対するトップドナーであるが、今後は総花的であった援助を絞り込む必要があり、協力隊派遣についても先方の受け入れ状況及び生活環境を調査した上で、パイロットエリアの絞り込みを行う必要があるとの認識が示された。また、具体的なモデル州の選定については、ボランティア事業のみを考慮するのではなく、草の根無償資金協力や JICA の他スキームとの連携を視野に入れて検討する必要があるとの意見が出された。

（2）隊員の派遣分野及び国別事業実施計画との整合性について

当方からの国別事業実施計画に沿った保健医療分野、産業開発・地域開発分野、環境分野を協力隊派遣の重点分野とする提案に対して、これまでもメキシコ事務所は同計画の事業ローリングプランに協力隊派遣を取り込んでおり、重点分野については同意する旨確認された。

（3）隊員連絡所の設置について

来年度については、前向きに検討する旨説明を行った。事務所規模に関し、チリ隊員連絡所の規模を検討したいとの当方案に対し、メキシコはチリとは環境及び治安状況が異なるため配慮願いたいとの要望があった。

また、上京隊員、任国外研修旅行及び帰路変更中隊員の単なる宿泊施設となるのではとの懸念に対して、隊員連絡所が単なる宿泊施設とならないように運営を徹底する旨回答があった。

3-2 日本大使館との協議

先方：村岡書記官

（1）草の根無償資金協力について

メキシコでは協力隊員と草の根無償資金協力との連携が他国に比べ多く見られるが、今後も同連携を継続していく旨確認を行った。

また、現在平成 12 年度秋募集で保健婦(士)の募集を行っている MEXFAM ウルアパン診療所には、既に草の根無償協力により機材が提供されており、優先案件として同要請に対する隊員確保に努める旨回答した。

(2) 日本文化紹介企画について

JICA による日本文化紹介を目的とした企画の有無について質問があり、当方から、本部から企画を提示する事はないが、他国では隊員が中心となって現地大使館とも協力しながら日本文化紹介週間等の企画を行っている例が多く、メキシコでも同様の企画が実現することを期待したい旨回答した。

3-3 メキシコ外務省との協議

先方：EFRAIN DEL ANGEL RAMIREZ 課長

(1) 隊員派遣について

メキシコ外務省から、協力隊派遣についてメキシコの地方部は未だ多くの住民が貧困状態にあり、地方のコミュニティーでの協力隊員の活動を大きく評価しているとの説明があった。また、今後協力隊員の活動効果をより高めるために、ある程度派遣地域を限定し、複数の隊員派遣もしくはプロジェクトなど包括的な協力を期待している旨説明があった。なお、派遣地域について、チアパス州及びゲレロ州は州政府や麻薬の問題があるため協力隊派遣の拡大は望ましくないとの認識が示された。

当方から、JICA においても今まで協力隊員間の連携は少なかったとの認識であり、隊員の複数派遣及びモデル州/地域の設定による協力効果の拡大を前向きに検討している旨回答した。また、公募制の事業のためグループ活動を予定しても職種によって確保が困難な場合もあり、留意が必要である旨回答した。

(2) 政権交代の影響について

12 月 1 日に政権交代が行われる予定であり、今まで担当していた CRISUTINA RUIZ RUIZ 部長及び EFRAIN DEL ANGEL RAMINES 課長は離職する可能性が極めて高いが、今までの方針及び JICA との協力が継続するよう最大限努力しているとの説明があった。

3-4 メキシコ事務所への調査結果中間報告及び協議

先方：山口所長

(1) 派遣形態について

まず、当方から活動現場を調査したメキシコ隊員は活発に活動しており、着任後間もない隊員も既に活動に積極的に取り組んでいる旨報告した。

また、パイロットエリアについては、「メ」国で最も貧しいチアパス州及びゲレロ州については治安問題並びに「メ」国外務省から留意の意向が伝えられたことからパイロットエリアとはせず、治安面の問題が比較的少なく、受入側の熱意も高く4番目の貧困州に数えられるベラクルス州をパイロットエリアとしたい旨報告した。加えて、治安の問題はあるものの協力隊員の派遣実績があり、チアパス及びゲレロ州に次いで貧困状態にあるオアハカ州、並びに隊員派遣による協力効果が出ているイダルゴ州及びミチョアカン州を重点州と位置づけ、引き続き同規模の隊員派遣を継続したい旨報告した。

山口所長から、治安面のみにとらわれると真に協力を必要としている地域での活動ができなくなる可能性があることと懸念していること、並びに地方に協力を限定するのではなく他の援助スキームと連携しながら都市型貧困への対応も検討している旨説明があった。

当方から、治安面は現在事務局で隊員を派遣する上で最も重視している点の一つであり、万全の配慮を行う方針に変更はないものの、オアハカ州のように隊員派遣実績もあり安全が確認されている地域があれば、州全体の犯罪件数は高いものの協力を行う旨回答した。また、今回検討している派遣方針は「メ」国への協力隊派遣に対する考え方を示すものであり、地方の貧困対策を協力の中心と据えるものの、都市型貧困等への協力や文化交流色の強い隊員派遣を否定するものではない旨回答した。

(2) 隊員の職種について

現在ベラクルス州を中心に多数の農林水産関連職種（家畜飼育8件、食用作物3件、養殖2件等）の要請が出されているが、十分に適格者を確保できていない。そこで、確保の見込みが薄いままいたずらに募集を継続するのではなく、それぞれの専門性では見劣りするものの優秀な人材が確保

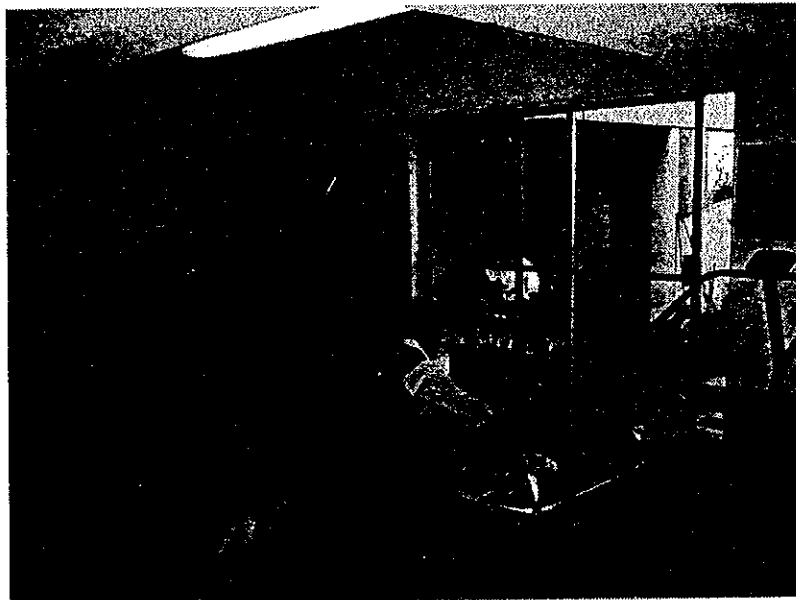
しやすい村落開発普及員（農業系）や環境教育等の職種で対応できる要請については職種変更を検討することを、ベラクルス州の担当者及び仲間調整員と協議し合意した旨報告した。平成12年度秋募集の選考結果を持って、全ての未確保要請を再度検討することとする。

山口所長から、考え方として、コミュニティーでの協力であるから農林水産関連の専門技術が必須であると限定するのではなく、村落開発や青少年育成の観点での技術面のみではなく精神面を重視した協力を検討する必要がある旨回答があった。また、日本の応募者状況を事務局と在外事務所とで共有し、派遣方針に反映させていく必要があるため、適格者が確保できなかった場合は、その理由を在外事務所にも知らせて欲しいとの要望があった。

3-5 協力隊活動現場視察

(1) 脳性麻痺支援協会：理学療法士、工業デザイン（平成12年度秋募集）

同支援協会は30年前に脳性麻痺障害者に対するリハビリを目的に設立されたNGOの一つであり、メキシコ全土に30の関連団体が存在している。オアハカ州で現在2名の隊員が活動中であるピニャ・パルメラ児童支援センターも、同協会の関連団体の一つである。施設内には医学的な療養部門、職業訓練部門、教育部門があり療養部門から理学療法士が要請されている。同協会には水療法用のプールや理学療法士が6名、理学療法の補助を行っている職員が6名所属するなど環境は恵まれており、隊員には同協会の理学療法士に対する技術面の協力の他、メキシコ州内にある関連施設への巡回指導等も期待されている。



「脳性麻痺支援協会（APAC）の理学療法士」

また、同協会には各障害者に対してそれぞれの体や状態にあった車椅子、矯正具、補助具等を製作している部門も存在し、これらのデザインに対する協力要請が出されているが、日本においても同部門の技術を持っている人材は不足していること、従って協力隊の職種であるデザインでは対応が困難である旨説明を行った。同協会から車椅子や矯正具のデザインの経験が無くても、デザインの知識があれば協力が可能であるとの説明があり、対応は困難であると思料するが技術顧問に相談の上対応する旨回答した。

(2) ウィチャパン社会総合センター：

荻野民子隊員 (11/1 養護)、養護、理学療法士、作業療法士 (12 秋募集)

荻野隊員は同センターでの週2回特殊教育の指導、4家族への訪問指導、資金調達のための洋裁教室、日本食及び日本語教室を精力的に行っていた。同センターはNGOであり、資金不足により特殊教育の指導者が確保できず、現在の約40名の生徒に対し同隊員とカウンターパートの2名で対応を行っていた。また、カウンターパートは生活のために他に仕事を持っており、現在週2回しか特殊教育のクラスを開講することができず、教育省から学校として認められていないため、指導者が州から配置されていない。

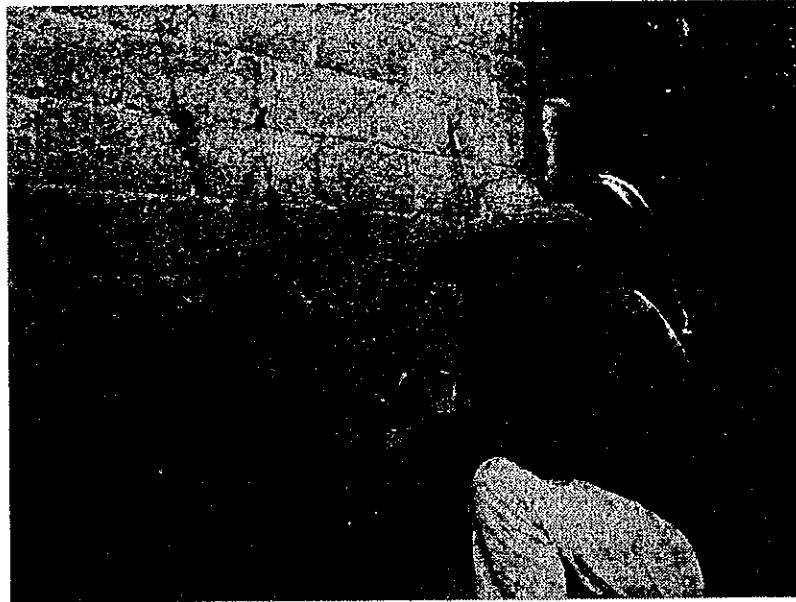


「活動中の荻野民子隊員 (11/1 養護)」

そのためまず資金不足の解消を図り、新しい指導者を雇うことにより指導日を増やし、教育省に学校として認められ州からの指導者の配置を目指すことが大きな目標となっている。新しい指導者を雇うためには月に千ペソ必要となっているが、現在行っている洋裁教室の売り上げは月に380ペソであった。既に1,300ペソの貯金があり、3,000～4,000ペソまで資金が集まったら新しい指導者を雇う予定である。資金調達は困難であるが、生徒の家族が積極的に活動に参加しており、今後が期待される。

(3) 社会開発省地域開発局エル・パソ村：野村貴子隊員（10/2 野菜）

野村隊員は平成12年3月に配属先を変更し、現在はエル・パソ村の11家族に対して果樹栽培の指導を行っている。当初は講習会を行っていたが、現在同村では地域産業の漁業が開始され、講習会に村人が集まらないため、方針を変更し各農家を巡回し個別に指導を行っていた。既に挿し木の指導は終わり、今後は果樹の剪定、接ぎ木を指導する予定である。



「野村貴子隊員（10/1 野菜）が現在導入中の挿し木」

配属先変更を行ったため、同村での活動期間は約10ヶ月程度となり十分な指導は困難であるが、挿し木は各農家で既に実践されており、村に新しい栽培技術をもたらした野村隊員の後任隊員を強く要請された。しかしながら、同配属先である社会開発省は12月に予定されている政権交代により大きな影響が避けられないため、政権交代後を見極めてから同後任の要請を検討することとした。

(4) メスキタル谷の花組合：安田亜希子隊員（9/3 手工芸）

安田隊員は染料の原料となるコチニール（染色用貝殻虫）養殖プロジェクトを企画実行し、現在近隣の5つの村落でコチニールのプロジェクトを展開していた。またコチニールを生産している村を巡回し、それぞれの村にあった手工芸を指導していた。



「村のコチニール養殖場」

サボテンについている白い虫がコチニール

コチニール養殖プロジェクトについては既に3回の収穫があり、プロジェクトは順調に推移しているが、同隊員が中心となっており村人に頼られる傾向が強いため、来年4月の離任にそなえ村人にプロジェクトの運営を任せていく予定である。コチニールは3ヶ月に1回、約1キロ生産することが可能であったが、家族単位では少量であり市場で販売するには至らず自家消費で終わっている。今後はコチニール生産農家の組合を組織して、市場で販売することが目標となっている。

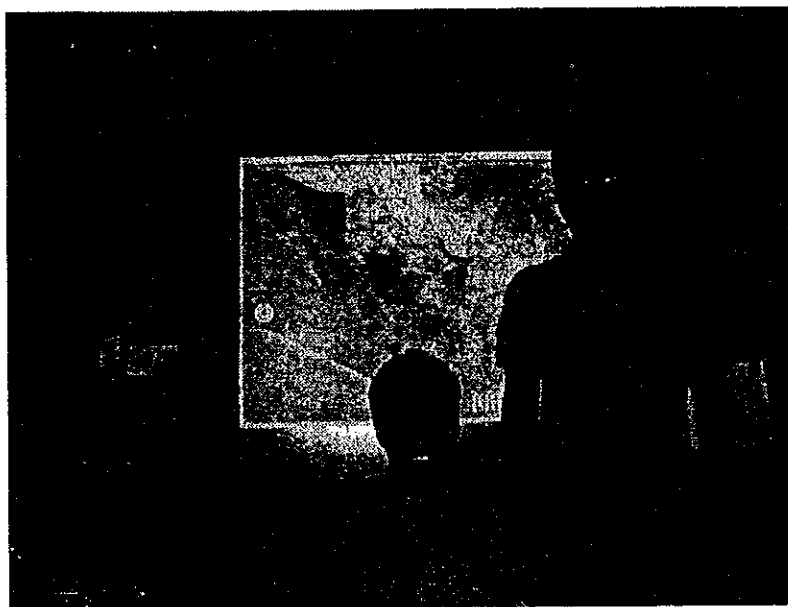


「安田亜希子隊員（9/3 手工芸）とカウンターパート」

手工芸の指導については、新しい技術やデザインの吸収力が高い若手を中心に指導を行っていた。組合の手工芸品店で販売する品物に荷札を付け、

生産者及びデザイン毎の売り上げを管理する事を企画したが、組合員に受け入れられず、現在はデザインの指導に限っている。後任は要請していない。

(5) 社会開発省ボハイ農民組合：柏政樹隊員（11/1 市場調査）



「柏正樹隊員（11/1 市場調査）とカウンターパート」

柏隊員は当初は農民組合そのものに配属する予定であったが、社会開発省の予算の関係により、実質上は同組合に対して家屋、トイレ、飲料用水タンクなどの生活面に関する物資支給援助活動を行っている日雇い農民支援国家計画に配属となっていた。同隊員は市場調査隊員として派遣されたため、配属先の物資援助活動にはかかわらず、個別に配属先から要請を受け、新しい市場の情報収集等を行っていた。現在はメキシコ連邦区にある工場と配属先が管轄している地域の主産業であるレチュギータ（サボテンの一種）の売買交渉を行っている。現在試行錯誤を行いながら活動を継続していた。

(6) 神経開発専門センター：

吉野典子隊員（12/1 言語聴覚士）、理学療法士（12 秋募集）

吉野隊員は言語聴覚士として同センターにおいて障害を持つ子供に言語

訓練を行っている。同センターには25名の子供が通学しており、吉野隊員がそれぞれの子供の言語障害の程度を既に診断し、一人ずつ言語訓練の記録を作成しながら、それぞれの子供に対して週2回の言語訓練を行っていた。また、言語訓練と平行して摂食指導の必要性を感じており、10月に家族及びスタッフを対象に講座を開催したが、今後は個別に摂食指導を行っていく方針とのことである。



「活動中の吉野典子隊員（12/1 言語聴覚士）」

同センターには吉野隊員の他に理学療法士が1名、並びに資格を持っていないスタッフが2名活動しているが、人手不足のために言語訓練は吉野隊員が一人で専門的に行っている状態である。同隊員は後任を要請しない方針であるため、将来的に言語訓練を担える人材を探し出すことが当面の大きな目標となっている。

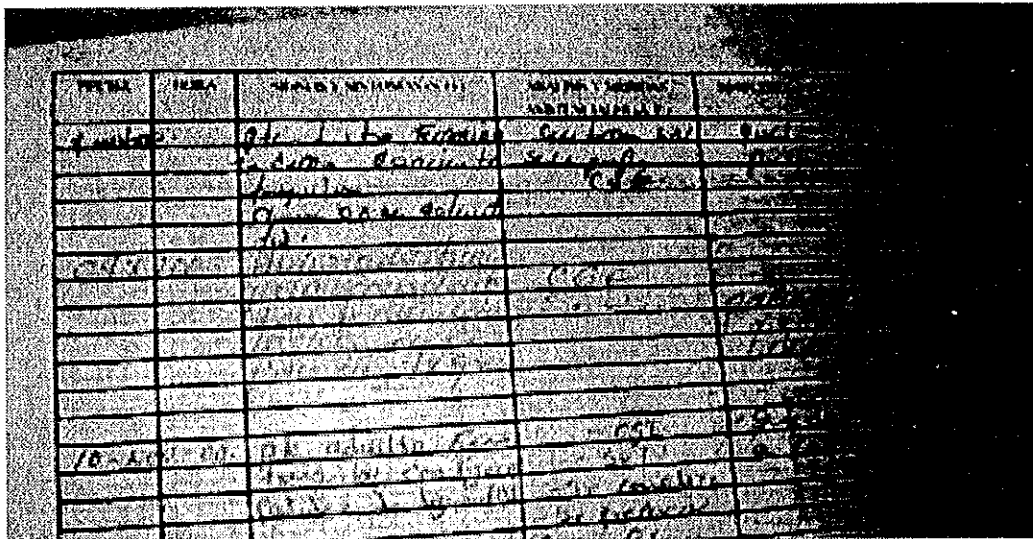
また、寄付により土地を提供され、新校舎を建設中であったが現在は資金不足の為に工事はストップしていた。現在の校舎は賃貸のため、新校舎が建設されると家賃の1000ペソが不要となり、スタッフの確保等大きな改善が期待されるため、草の根無償資金協力等の援助を検討していた。

吉野隊員は活動を開始してわずか約2ヶ月であったが、既にスペイン語で十分コミュニケーションが可能であり、充実した活動を行っていたのが印象的であった。今後の活躍が期待される。

(7) ポサ・リカ病院：西原三佳隊員（12/1 看護婦（士））

西原隊員はベラクルス州への看護婦（士）複数派遣プログラムの一貫として同病院に派遣され活動を行っている。既に阿形郁子隊員（11/3 看護婦（士））が同州の別の病院で活動中であり、平成 12 年度 2 次隊でさらに 4 名が同州の別々の病院に派遣される予定である。

西原隊員は婦長をカウンターパートとし、現在までは同病院の現状把握に努めていた。同州には中野真里子隊員（8/1）が積極的に活動を行った経験があり、婦長と西原隊員が中心となり、中野隊員が残した看護のプロセスを記録する「看護シート」の看護現場への導入を精力的に行っていた。



DATE	NURSE	PATIENT'S SYMPTOMS	NURSING TASKS PERFORMED	RESULTS
12/1	Shiwa, Rika	High fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature decreased, patient more comfortable
12/2	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/3	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/4	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/5	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/6	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/7	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/8	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/9	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/10	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/11	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/12	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/13	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/14	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/15	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/16	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/17	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/18	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/19	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/20	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/21	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/22	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/23	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/24	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/25	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/26	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/27	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/28	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/29	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved
12/30	Shiwa, Rika	Low fever, cough	Administered antibiotics, provided hydration	Temperature stable, cough improved

「看護シート」(左から日付、看護婦の名前、患者の症状、実際行った看護業務、その結果を書き込むようになっている。)

「看護シート」は患者の症状に対して具体的にどのような看護業務を行って、結果どのようになったかという看護プロセスを明らかにし、看護業務改善に結びつけようというものであるが、現状では例えば具体的な処置を記入する代わりに単に「看護業務を行った」と記入するなど形だけの使用に留まっており、同シートの精神が実践されていない。同看護シートを適切に使用されるようにし、結果的に看護の質を改善することが課題となっている。

現在同病院では新病棟を建設中で、来年 4 月を目処に移動する予定であり、現在の病棟に不足しているナースコールやベッドの回りのカーテン等、

今まで不足していたハード面は同移転により改善される。今後は西原隊員が婦長と共に進めている看護の質の改善が期待される。

現在はボサ・リカ病院のみでの活動であるが、今後はカウンターパートである婦長が講義を行っている看護学校の訪問、及び近隣病院への活動の展開を予定している。

西原隊員も着任後わずか2ヶ月であるにもかかわらずスペイン語でのコミュニケーション能力は高く、カウンターパートに恵まれたこともあり予定以上に活動が順調であるとのことであった。平成12年度2次隊の赴任後に同州の看護婦(士)隊員を集めてミーティングを行うとのことであり、今後ベラクルス州派遣の保健医療分野隊員間の関係が期待されている。

(8) ベルナルド・ペーニャ病院：阿形郁子隊員(11/3看護婦(士))

阿形隊員はベラクルス州看護婦(士)複数派遣プログラムの先陣として同病院に派遣され活動を行っている。阿形隊員の後に平成12年度1次隊で西原隊員がボサ・リカ病院に派遣されており、今後派遣予定の平成12年度2次隊4名と合わせ計6名の看護婦(士)隊員がベラクルス州各地区の各病院で活動することとなる。

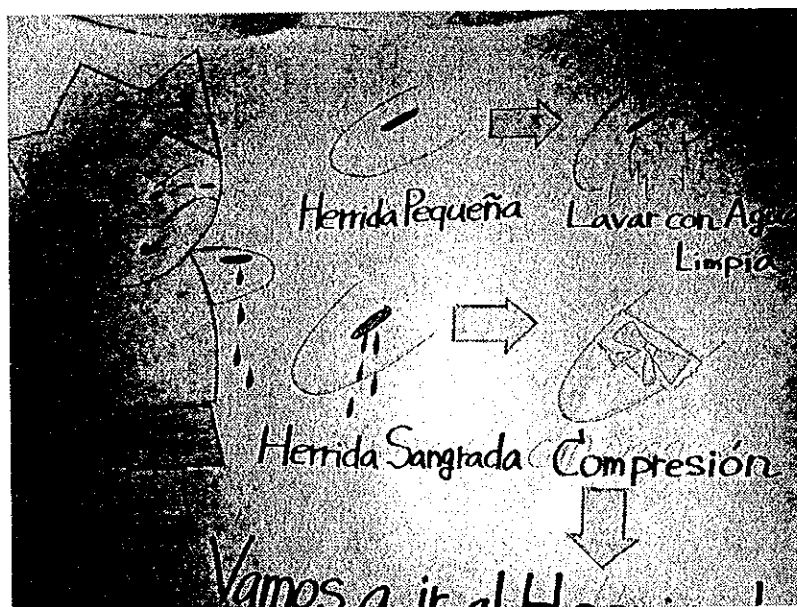
阿形隊員は婦長をカウンターパートとして同病院の看護婦業務の質の向上のため活動を行っている。同病院はかつて二人の看護婦(士)隊員が活動していたが、現在では先輩隊員の活動成果は残っていない。その原因を同病院の看護婦が看護婦業務について自分で考えていないことであると判断したため、現在行っている古い看護業務マニュアルの改訂作業に同病院の看護婦(士)に全面的に参加してもらい、隊員が離任した後にも活動成果が継続する事を目指している。

なお、平成12年度2次隊4名が赴任した後は、積極的に共同で講習会を企画したり、巡回指導等を行うことを予定している。

(9) カテマコ保健所：笹川恵美隊員(11/2助産婦)

助産婦として派遣されたが、同保健所の運営システムが大きく変化し以前あった病院としての機能が排除されたため約25~30件/月あった分娩数が現在では約8件/月程度に減少し、助産婦業務よりも看護婦もしくは保健婦業務が求められている。

笹川隊員はそこで頭を切り替え、積極的にコミュニティーを巡回し妊産婦の家庭訪問及び栄養指導を行ったり、カテマコ市内全ての小学校及び幼稚園を訪問し体重測定を行うなど、活発に活動を行っているとのことである。本調査団訪問時には家族が来墨していた関係で残念ながら同隊員に会う事はできなかったが、他隊員及び調整員ともスペイン語でしか会話を行わないなどスペイン語に対しても積極的に取り組んでおり、今後の活動が期待される。



「笹川隊員作成のコミュニティー巡回時に使用するポスター」

(10) サンティアゴ・デ・ドゥクストゥラ市役所：

土木設計（平成12年度秋募集）

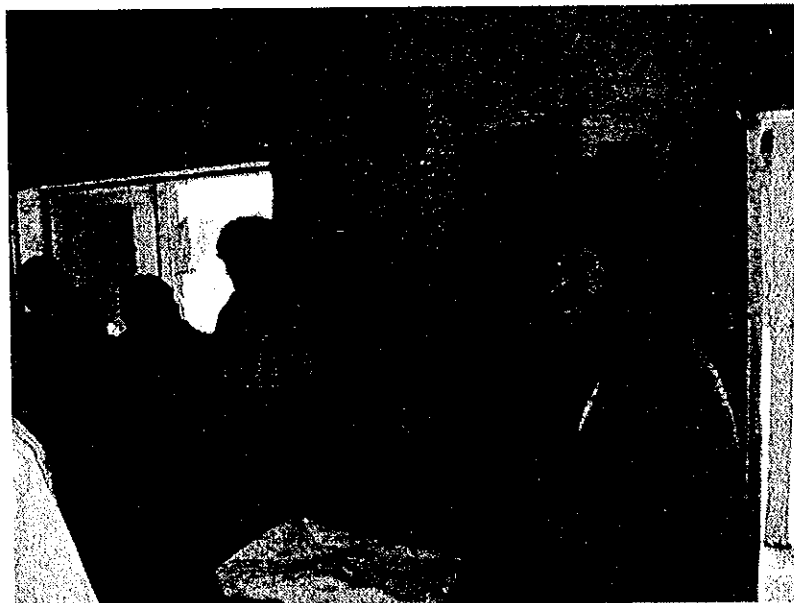
隊員要請が出されている同市役所の公共事業課は学校、道路舗装、上下水道の整備等の各種公共事業の設計及び現場監督を行っている。同市にある96のコミュニティーが管轄であり、2人の設計技師を含む9人の同課職員により本年は大小合わせて約200件の工事を管理した。設計面を中心に隊員に対する期待は大きいですが、現在の職員は本年12月の市長選挙に伴いほぼ全員が離職する予定であるため、新しい職員が着任した後に改めて説明を行う必要がある。

(11) リオ・ラガルトス市役所：

南雲真里美隊員（婦人子供服）、斉藤和敬（養殖）

南雲隊員は UNDP の資金援助により 1996 年に設立された、漁師の妻達によって構成されている女性組合で洋裁を教えている。ユカタン州海岸沿いでは、年々漁獲量が減り、卸値も下がっていて人々の生活を圧迫しているが、そのような状況の中で、女性達が副収入を得て家計を助けたいという目的で形成された組合である。熱心な女性が多く、グループを二つに分け一日交替で教えていた。当初は衣料品の材料費等を隊員支援経費でまかなっていたが、現在では組合員作成の衣料品を市場で販売することにより、材料費をまかなえるようになるまでになった。

また、草の根資金協力により縫製工場を建設することとなり、南雲隊員の指導している女性組合員が同縫製工場で中心的な役割を果たす予定となっている。南雲隊員は当初住居の問題で苦勞したものの、地元に着した活動を積極的に進め、活動の成果が着実に現れてきている。今までは南雲隊員が市役所及び州政府との折衝等を行っていたが、今後は離任の事も視野に入れ、各役所との交渉等は既に女性組合員に任せており、今後は州政府レベルの交渉も女性組合員に任せていく予定とのことであった。地域の人々の信望も厚く、今後の活動が期待されている。



「活動中の南雲真里美隊員（10/3 婦人子供服）」

齊藤隊員は、当初養殖の指導を行う予定であったが、配属先の都合により赴任後すぐに急遽中学校において水産に関する授業を行うこととなった。残念ながら日程の関係で訪問が週末となり、授業を見学することはできなかったが、同隊員によると授業は全学年を対象に技術教員（CP）と一緒にしており、語学の問題で説明が困難な場合に補助してもらっているとのことであった。赴任後約半年が経過していたが、学校で授業を行うということもあり、活動上最大の問題は語学力であるとのことであった。

語学力向上も目的として、齊藤隊員は担当の授業が無い場合は学校に行く必要が無いものの、交流を図るため出かけており、また、漁業者やツアーガイドと仲良くなり、伊勢エビ漁やたこ漁と一緒にいたり日本語を教えたりして交流を図っていた。



「齊藤和敬隊員（11/3 養殖）とその生徒」

4 現地調査結果（ベリーズ）

4-1 ベリーズ水谷恭平協力隊調整員との協議

（1）隊員受け入れ準備の進捗状況について

隊員の受け入れ準備の進捗状況について確認を行った。

水谷調整員がベリーズに着任後1週間は独立記念式典のため省庁は機能せず、またハリケーンケースによる JDR 受け入れ、協力隊調整員事務所設置都市が約2ヶ月間決定しなかったこと等から、調整員事務所開設準備及び平成12年度秋募集新規要請開拓は順調には進んでいず困難な状況にあった。

（2）派遣方針について

「ベ」国に対する派遣方針について協議を行った。（2-2 参照）

4-2 ベリーズ外務省及び経済開発省との協議

先方：Mr. David A.K. Gibson 事務次官（外務省）

Ms. Nancy Mahung Namis、JOCV 担当官（経済開発省）

外務省及び経済開発省に対して表敬訪問を行った。協力隊事業開始への期待を表明し、本調査団の目的について説明を行った後、各省庁からの要請の到達状況について確認したところ、現在まで要請は上がっていないとのことであった。ハリケーンケースによる災害対応等があったものの、本年1月に要請背景調査団が説明を行ってから10ヶ月が経過しており、懸念を表明すると共に本事業に対する協力を依頼した。協力隊事業の受け入れ窓口となっている経済開発省による各省庁からの要請の調整及び水谷調整員からも要請が見込まれる省庁への説明を行うことを確認した。

4-3 ベリーズ協力隊調整員事務所物件調査

ベリーズシティへの協力隊調整員事務所設置の決定に伴い、ベリーズシティ内の物件調査を行った。

4-4 現地語学訓練準備状況調査

現地語学訓練を予定している地域言語センターを訪問した。同センター

のコースは12月18日で終了するが、12月9日赴任を予定している平成12年度2次隊に対して12月13日から12月23日までの語学訓練を依頼している。しかしながら、12月18日で同センターが終了するため同センターにとって経理上の問題があること、並びに正規の教師は休暇に入るため臨時教師を探しているが未だ見つからないとの二つの問題があった。

同センターは台湾の支援により本年3月に開校し、現在キューバから派遣されている看護婦及び中米各国の大使館員等が既に同センターのコースを受講している。しかしながら、殆どが長期（3ヶ月～1年）であり、協力隊の現地語学訓練を行うためには特別に短期コースを設置する必要があるとのことである。また、コンピュータ室等施設は充実しているものの、同センターは教師数の不足問題を抱えている様である。

平成12年度2次隊の赴任が間近であることから、同センターでの訓練が不可能な場合は個人教師を雇う事を検討しており、現在元システムエンジニアのベリーズ人とも交渉を行っている。平成12年度2次隊3名のうち2名はシステムエンジニアであることから、語学教師ではないもののセンターでの訓練が不可能であれば同氏による対応も可能と判断される。

4-5 要請背景調査

(1) 教育スポーツ省 職業訓練・教育局：「食品加工」(12春募集追加要請)

平成12年度春募集で追加要請として提出されたものの、JICA 関係者による現場調査が行われていなかったことから、選考対象外としていた要請の配属先を訪問した。

同職業訓練・教育局はベリーズ国内の職業訓練を統括している部局であり、ベルモパンにある教育スポーツ省の一部局であるものの事務所はベリーズシティに設置されている。現在「ベ」国はカリブ開発銀行の支援を受け、ベリーズシティのあるベリーズ地区に2校、その他各地区（コロザル、オレンジウヨーク、カヨ、スタンクリーク、トレド）にそれぞれ1校の職業訓練校を設置予定であり、ベリーズ校、コロザル校、カヨ校は既に設立され授業を行っている。

同校で行う職業訓練の一つとして食品加工を行う予定であるが、未だ食

品加工分野のカリキュラムは整備されておらず、また同教師も不足している。そこで、同分野のカリキュラム策定及び食品加工分野の教師育成のために隊員要請と至った。現在建設中のトレド校には既に食品加工関連機材が導入されているため、同校を中心に協力を依頼された。



「職業訓練・教育局 (ETTS) の担当官 Ms.Laura Flores」

当方からカリキュラム策定を行うことは協力隊員では対応が困難であるため、カリキュラム策定は望ましい業務として留め、活動内容を食品加工分野の教師を対象とした指導を中心とすることが望ましい旨説明を行った。また、トレド校はベリーズシティから車輜で4時間以上の距離にあり、ベリーズシティから通うことは不可能であることから、本部配属とするかトレド校配属とするかを含め同局担当官と共に水谷調整員がトレド校を視察するアポイントを取り付けた。同調査結果を基に要請として取り扱うかどうかを決定する。

(2) 職業訓練センター カヨ校：

「料理」又は「観光業」(本調査団検討要請)

職業訓練・教育局で紹介され、急遽視察を行うこととした。首都ベルモパンのあるカヨ地区のカヨ市にある職業訓練校であり、ベリーズシティから車輜で約2時間半の距離にある。同校はアイルランド人により設立され

た学校であるが、現在は「ベ」国の学校として認められている。現在 105名の生徒及び 12名の教師（うち 8名がベリーズ人、4名はアイルランド人ボランティア）が所属しており、木工、電気機器、溶接、自動車整備、観光（接客、料理、マネージメント等）、洋裁の 6つのコースが設定されている。

日本の草の根無償資金協力（カヨ地区職業訓練センター整備計画）により洋裁コースの教室、机、及びミシンが供与され、ベリーズ人教師により授業が行われ機材は有効活用されていた。しかしながら、アイルランド政府の援助により建設された観光（接客及び料理）コース用の教室は教師不在により活用されていず、ドイツ政府の援助により供与された厨房及び調理器具も活用されていないため、「料理」または「観光業」での協力が求められていた。



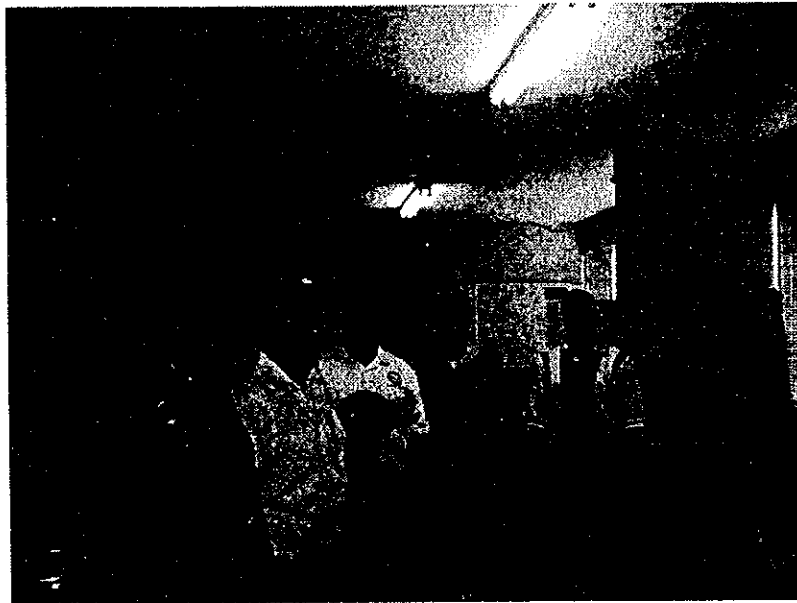
「ドイツ政府により供与された厨房及び調理器具」

観光は農業（柑橘類）、水産業と並ぶ「ベ」国の 3つの重点産業の一つであり、観光業のサービス分野での協力効果は高いと思料される。本調査団が同センターを訪問した際には、急なアポイントであったこともあり校長（アイルランド人）が不在であったため、同校長との協議を待つて検討することとした。

(3) 天然資源・環境・産業省 国土情報センター：

樋口忠夫派遣予定 (12/2 システムエンジニア)

同センターは国土管理・区分等の改善に資するような基礎データを作成・活用しており、ベリーズの天然資源・環境・生物多様性等に関するデータの中核として機能している。同センターが保有する情報の地域ネットワーク (LAN) を広域ネットワーク (WAN) に拡大しようとしており、広域ネットワークシステムの運営・維持管理面での協力が求められている。



「国土情報センターの職員」

本年1月の調査時から要請内容に大きな変更は認められなかったが、同センターはベリーズ政府において唯一の WAN を有する機関であり、コンピュータ関連の技術的蓄積が組織内にあるために、他省庁の情報化に対する協力も求められている。従って隊員に対する期待は大きく、また業務量も多い。

また、当初カウンターパートとして予定されていた Jair Guerra 氏が退職しており、現在は台湾系ベリーズ人の Yien Tsai 氏が契約コンサルタントとして勤務している。同氏は正規職員になる可能性があり、隊員のカウンターパートとなる予定である。

住居に関しても既にベルモパン市内の職場から徒歩15分程度のホームステイ先を確保しており、職員は若く職場は活気があり、当初の6ヶ月程

度はベリーズでの生活・文化に順応し、業務レベル等を把握するのに必要であるとの認識も共有しており、受け入れ環境は整っていた。隊員の活躍が期待される。

(4) 地方開発・文化省 地方開発局：

山口貴弘派遣予定 (12/2 システムエンジニア)

同省は各州に地方事務所を構え、地方コミュニティーに対し基本的ニーズの充足を目的とした訓練及びサービスの提供及び自然遺産の保護等を担当している。また、地方事務所で各種情報（経済、人工、各種インフラ、共同組合の有無等）の収集を進めており、それらの情報を地域住民の生活水準向上に資するべく活用していきたいが、そのために必要な知識・経験を有する人材がおらず、同分野での協力が求められている。なお、現在米国平和部隊2名が地方事務所で地方コミュニティー開発担当官と共に活動を行っている。

本年1月の調査時から要請内容に大きな変化はないが、当初存在していなかったカウンターパートとして Mr.Andy Palacio 氏が地方開発・文化省の情報担当官として着任しており、隊員は同氏と共に同省の情報化を推進することとなる。なお、同氏は現在台湾で技術研修を行っており、12月18日前後に帰国予定とのことであった。また、本省だけでなく、6つの地方事務所の担当者に対して、コンピューター関連の技術的助言が求められている。

懸案事項として、同省の事務所スペースは手狭となっており、本調査時点では隊員が活動を行うデスク及びコンピューターが確保されていなかった。同省は事務所スペースの拡大を検討しており、隊員分のデスク及びコンピューターの予算も確保済であるとの説明があったが、隊員赴任が間近に迫っており、隊員着任前までに必ず執務スペース及びコンピューターの確保を行うことを強く申し入れた。

(村落開発普及員の要請の可能性について)

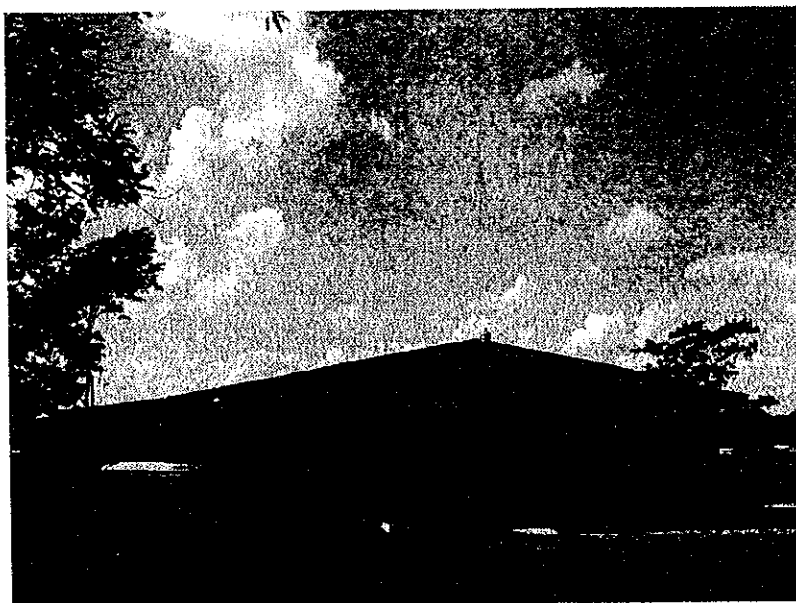
なお、同省の6つの地方事務所のうち2事務所に米国平和部隊が配属し活動を行っているが、「ベ」国に対する協力隊事業においても地方コミュニティーに対する協力を検討しているため、同省及び同省の地方事務所との

連携は今後も重要であると思料される。しかしながら、当方から「村落開発普及員」について説明を行った際には、既に同分野で米国平和部隊が活動しているためか同職種に対する感心は低かった。米国平和部隊とのデマケを念頭に、地方コミュニティーにおける協力隊活動についての検討が必要である。

(5) 観光・青年省 ナショナル4Hセンター：

和川卓也派遣予定 (12/2 食品加工)

同センターは主に学校をドロップアウトした13~19才程度の青少年に対して各種職業訓練(農業、食品加工・栄養、観光、洋裁等)を実施している。1学期は12週間の職業訓練と1ヶ月の実習で成り立っており、2学期制の全体で9ヶ月のプログラムが実施され、現在34名の生徒(うち17名は寮生活)に対し4名の教師が指導にあたっていた。



「ナショナル4Hセンター」

当初カウンターパートとして予定されていた農業担当教官は異動し、本調査団訪問時には交代要員をリクルートしている状況にあった。隊員には職業訓練の選択科目の1つである食品加工・栄養のコースを担当することが期待されている。月曜から金曜までの朝8時半から10時までと、10時15分から11時45分までの2コマの担当が予定されているが、12月18日

に1学期が終了しクリスマス休暇に入るため、来年1月8日からの2学期からコースを担当することとなっていた。

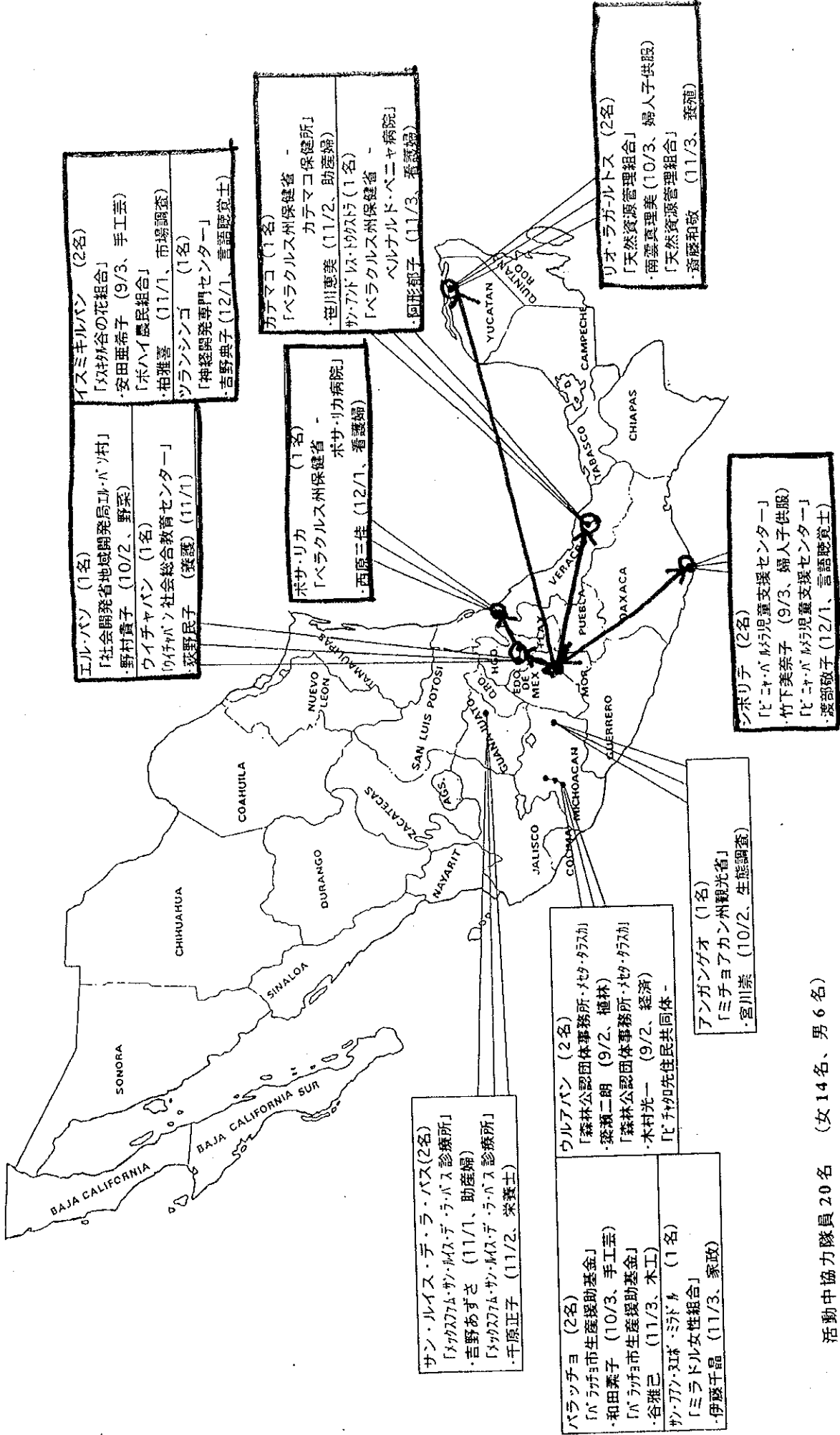
当方から着任早々コースを一人で担当するのは隊員にとって大きな負担となる可能性がある旨説明したところ、農業のコースと食品加工・栄養のコースを合同で行い、現在リクルートを行っている農業担当教官と共に授業を行うことを検討するとの回答を得た。

同センターは派遣予定隊員が食肉加工分野の経験があることが判明すると、現在来年度の予算編成の時期でもあることから、食肉加工関連の必要機材リストを隊員に提出して欲しいと要望があるほど隊員の受け入れについては積極的であった。受け入れ準備については特に問題ないと思料される。

以上

青年海外協力隊員配置図

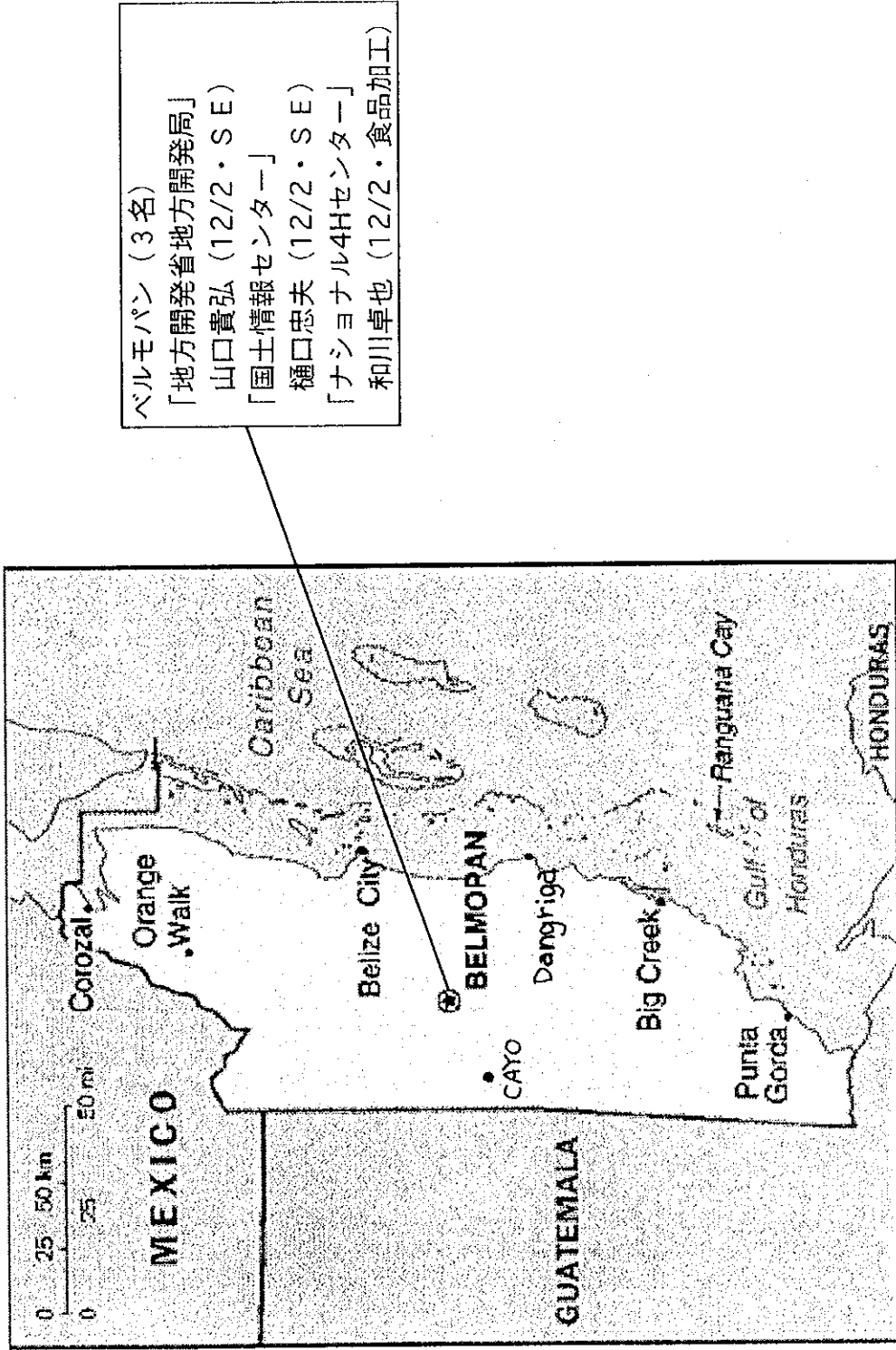
平成12年10月1日現在
JICAメキシコ事務所



活動中協力隊員 20名 (女 14名、男 6名)

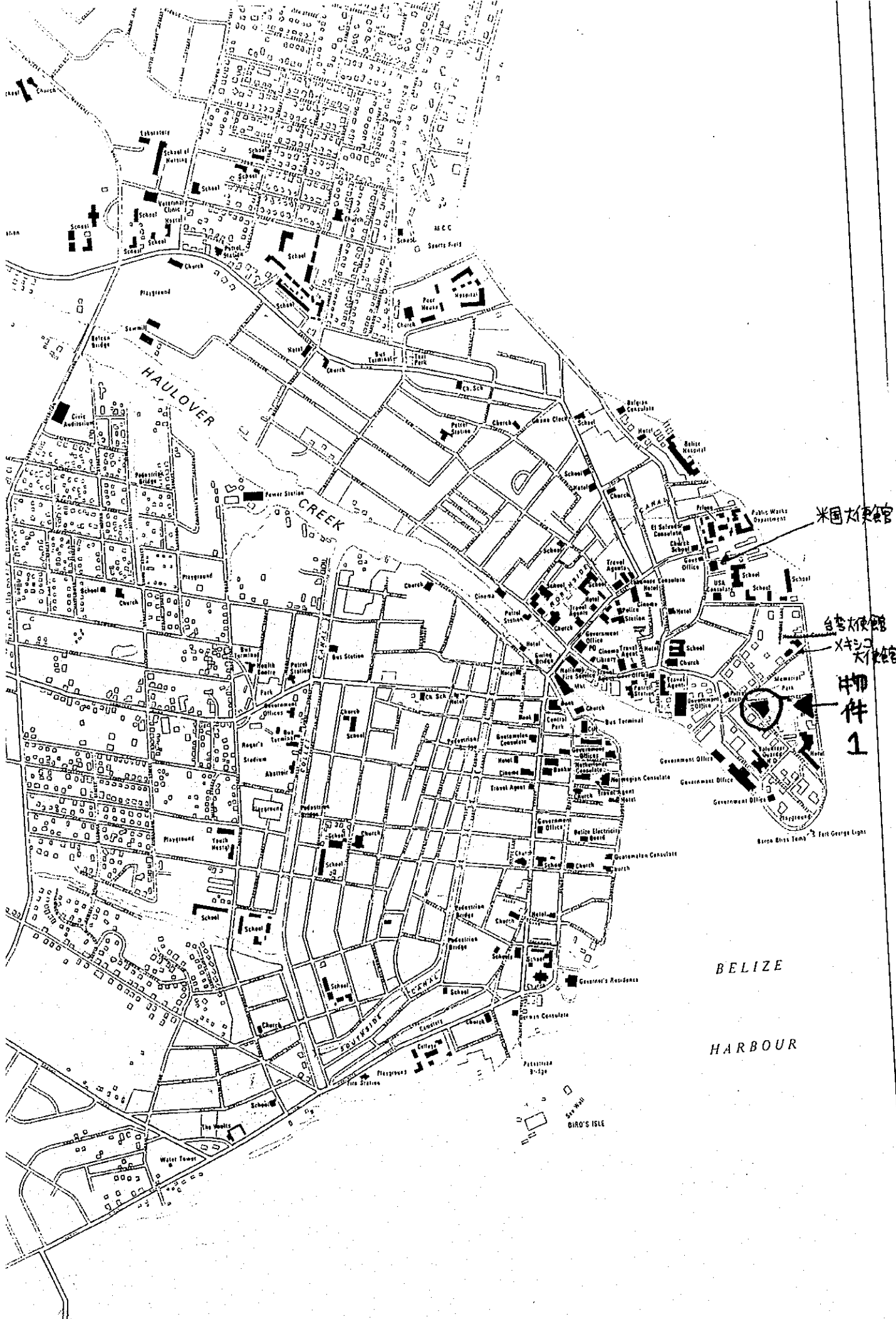
青年海外協力隊員配置図

平成12年12月21日現在



事務所物件調査票 (1)

		物件 1	物件 2	物件 3
物件形態		独立家屋 3階建の 2 & 3階部分	独立家屋 2階建の 2階部分	独立家屋 2階建ての 1階部分
関連機関までのアクセス	日本大使館	なし	同左	同左
	省庁	車で 1時間	同左	同左
	空港	車 15分	同左	同左
	交通網	市内乗り合いバス停留所より 3分	大学前のバス停より 1分	同左
敷地	敷地面積	450平米	250平米	250平米
	建物面積	166.64平米	70.56平米	102平米
	庭	あり	あり	なし
	その他の施設	なし	なし	なし
	築年数	30年	10年	40年
	強度	問題なし	同左	同左
	保安設備	なし	なし	なし
	部屋数	6	5	5
駐車場		4台可	2台可	2台可
家賃	月額	1050USD	2000USD	850USD
	年度額	12600USD	24000USD	10200USD
契約	入居可能時期	契約後 1.5ヶ月後	契約後 1ヶ月後	契約後 3ヶ月後
	契約可能期間	1年以上の長期	同左	同左
	支払い方法	各月	同左	同左
	敷金・保証金	補償金 1ヶ月分・前家賃 2ヶ月分	同左	同左
	解約条項の有無	3ヶ月前に通告	同左	同左
治安状況		大使館・ホテルのある市内で一番治安のよいエリア	高級住宅街に位置するため良好	物件 1と同じ
地理的状況		市内フォートジョージエリアは大使館・援助機関・ホテルが集中するエリア。また、町の中心部から徒歩で 5分で徒歩で用事を済ますことが可能。これ以上のロケーションは望めない。	キングスパークもフォートジョージにつぐ高級住宅街。町の中心から徒歩 15分程度。車がないと業務の遂行ができない。	物件 1と同じ
共益費		なし	同左	同左
入居に際して工事の必要性および工事費		防御壁の強化・内外装のペンキ塗り・駐車場の整備 大家が負担を約束	内装のやり直し	内装・外装の大幅な改修工事が必要、大家負担約束済み
その他		1階部分に現況では入居予定者なく予算にゆとりがあれば建物全体を借り上げることも可能。リノベーションを 3階部分 & 2階部分と段階的にわけて行うことで早期入居が可能	1階部分にはすでに入居者がおり建物すべてを借り上げることができない。また建物がエリアでも低地部分にあるので大雨・洪水時に浸水する可能性があり、下水の流れが悪い。	1階部分であり 2階部分にはすでに入居者がいる。



米大使館

自衛隊
X-452 米大使館

物件 1

BELIZE

HARBOUR

BIRG'S ISLE



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

LIB